



題字 井口 文章
再刊 第368号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2021

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：いよいよ錦城祭本番！
着実に進む錦城祭の準備
二面：錦城祭を支えるメンバーを取材
準備中の様子をグラフィックで紹介！

錦城に再び煌めく青春

本番へ向けラストスパート

9月11日(土)と12日(日)の2日間わたって開催される錦城祭が今日開幕した。今号では錦城祭を開催するまでの各クラスの準備の様子をお届けする。

男装女装×カジノ

1Cは、『K A I C I』というカジノ企画。男女の服装を入れ替え、トランプやサイコロを用いたゲームを行うという内容だ。
クラスでは、レングヤトランプなどの装飾を制作するこ



各クラス協力して準備の様子が見られた

良「3D」取りの企画

2Bの企画は、モグラ叩き、謎解き、脱出ゲームの3つの要素を掛け合わせた『なぞもぐ！』という全く新しいものである。企画の準備に取り掛かっていた本沢優菜さんに話を聞いた。本沢さんは「錦城祭でやりたい企画の案を出すとき、この3つが最後に残り、



準備中の様子

今一度確認！コロナ対策できていますか？

HPD対策を呼びかけ
夏休み中、HPDに新しくコロナ対策の動画やマニュアルが掲載された。その経緯について保健室の水田みゆき先生は「同一部活でコロナ感染者が複数発生したため、再度、

安全な学校生活のために

錦城生の学校生活での感染対策について水田先生は、昼食を含み午後からの活動に緩やかなるよう見えるという。体育や部活動等では熱中症予防の観点から、マスクを

先生や生徒の声で錦城を発信

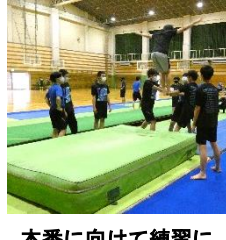
8月14日(土)から、錦城高校入試広報ラジオがスタートした。入試広報ラジオとは、受験生を対象に錦城の魅力や入試説明会に関する情報を発信していくというもので、今年度から始まった。田代直之先生と福江幸喜先生の2人によって配信されており、現在は第2回まで配信されている。今回の音声メディアによる入試広報は非常に珍しく、全国の高校でも、斬新の試みだ。まずラジオ導入の経緯について田代先生は「今年から、音声メディアが注目され始めていたことから、それを使って錦城について発信できないかと考え、積極的に活用していくことにしました」と話す。また、ラジオ制作にあたり工夫したことについて「入試説明会や個別相談会は堅苦しく感じるかもしれませんが今回はラジオなので気さくに会話するような感じで話すことを意識しました」と福江先生。今後は他の先生方や錦城生にも登場してもらい、錦城についての情報を発信するつもりだそう。新型コロナウイルスがまん延している中で「どう錦城について知ってもらおうか、ネット環境を充実させていくか」について考えることができたので良かったと2人は振り返る。入試広報ラジオ導入についてCさん(1年男子)は、「自分たちの受験の頃もコロナの影響で大変でしたが、入試広報ラジオ導入は感染対策をしながら情報を得ることができるので、初めての受験で不安な受験生にとって安心できる良い取り組みだと思います」と話した。(歩)



音声メディアが注目を集めていたこと導入に至った理由の一つだそう

最高の舞台で輝くために

理科室で世界一周
2日理科室Bにて展示を行う生物部。部長の増田結月さん(2B)は、当日までに取り組んできたことについて「部室から理科室に砂を運ぶ作業や、大きな展示の準備を行いました」と話す。今回は日本庭園を模した大きな展示を用意しているそう。全体的なコンセプトは「世界一周」。「それぞれの生物を元々生息している地域ごとに分け展示することで、なかなか外出することのできない状況下で『世界』を味わってもらえたらと思います」と増田さん。感染対策については「1回に入場できる人数を制限するうえ、2日目に開催される魚の蘇生実験は定員を10人に制限します」と万全な様子だ。増田さんは「去年は満足にできなかったのですが、今年は来てくれるお客さんに満足してもらえようという展示にします」と語った。



本番に向けて練習にも熱が入る

団体の演技で魅せる
体操部ではタンブリングの発表を行う。タンブリングとは、体操選手が使うようなバネ入りの特殊な床を用いて行う、回転を始めとした技の総称だ。
今回の発表は30分間で音楽に合わせて行われる。演技の初めに行われるのは「徒手体操」と呼ばれる、体操部に伝わる伝統的な演目。部長の進藤晴海さん(2M)は「タイムリートを意識して練習してきたので、部員の息のそそった演技を見てほしいです」と話す。さらにパート別の演技も、各パートの魅力が存分に発揮される。演技を見る際は間隔を取りながら、手拍子での参加をしてほしいと話す。
進藤さんは「発表できることに感謝しながら、精一杯やりたいです」と意気込んだ。

むらさき草

2019年5月17日に行われたサッカーJ1リーグの浦和レッズ対湘南ベルマーレの試合を知っているだろうか。序盤に浦和が2点を先行して迎えた前半終了間際の1シーン。湘南の選手がシュートが外側にあった水ポトルに跳ね返りゴールの外へ出てしまう。これを見た主審はなんとゴールを認めず、プレーを続行した。主審からは見えなかったかもしれない。実際、多くの情報が飛び交うフィールドで瞬間のプレーを見極め、ジャッジしなければならない主審の判断は、とても難しい。仕方がない事であるが、このような誤審は、これまで多くの試合でも数多くある。一サポーターとしては「もし主審の判断が違ったら、こぼれやむこともある。時にはSNSなどを使って抗議したりする人もいることは確かだ。この試合のハーフタイムに湘南の監督は選手たちに向かって「判定に納得できないなら試合をホイットしても良い」と呼びかけたそう。しかし、選手たちは最後まで諦めずに闘おうと決意した。サポーターもそんな選手たちを熱く応援し、チームは後半に3点を取り返して逆転勝利を収めた。湘南の選手たちのどんな逆境にも立ち向かい、諦めずに闘う姿勢はコロナ禍にある僕たちの生活でも大切だと思う。昨年度はこの錦城高校新聞を作るのが困難になることがあった。それでも諦めることなく、オンライン発行に挑戦するなど、精一杯できることに取り組む、何とかここまで発行が続けられている。今年度はこれまで順調に活動することができている。しかし、新たなデジタル株の出現をはじめ、依然として何が起きるか分からない世の中である。状況によっては校内での活動中止などもあり得る。もし前述のような状況下に置かれても、決してあきらめず、錦城高校新聞の伝統を絶やさないという覚悟をもって活動していきたい。(抹)

決して止まらず次を見据える

新体制初の大会
吹奏楽部が8月10日(火)に行われた第61回東京都高等学校吹奏楽コンクールに出る予定の錦城祭に向けて演奏場、銅賞を受賞した。この結果の練習を行っていた。現在果を受け、部長の阿部真佳さん(2M)は「約1ヶ月、2曲に専念したことで、演奏することや音楽そのものを改めて好きになりましたが、その分とても悔しいです」と振り返る。コンクールに向けての練習では、新しく赴任した新野将之先生のもと学生指揮者中心に自分たちで予定を立てるメニューを考え、各係が熱心で、新体制としての一歩を踏みに取り組んでいる。本番ではみ出せたという。大人数で2日間同じ内容の演奏会を行わせることはできるだけに密にうそうだ。最後に、阿部さんは「足を運んで来てくれるお客様の広い部屋で練習し、感染対策がドキドキワクワクする策にも気を使っていた。自分のような音楽を届けるので、是たちの課題を客観的に見て再非来てくださる」と錦城生へ認識する良い機会だったの呼びかけた。(抹)



受賞は新体制の第一歩となった



みんなで力を合わせて…

史上最高の2日間を創るために…

錦城祭準備 グラフイティ!!

密対策チーフ

濱倉 実紗さん(2B)

コロナ禍で行われる今回の錦城祭において、感染対策の中心となる密対策担当。チーフの濱倉さんは「今回の錦城祭に向け、6月あたりから対策について考え始めていました。具体的なルールについては1学期中に決めました」と話す。



ルールの内容は、左側通行やエレベーターの使用禁止、消毒や換気など。消毒、換気は実施状況を30分ごとにチェックカードに記入して提出する。さらに2クラスの実行委員が30分1度のペースで階段の手すりなどを消毒するなどの対策を行うそうだ。他にも熱中症対策として、こまめな水分補給を呼びかけている。(香)



柔道場もおしゃれに!

分担して効率よく!



&最前線で活躍する生徒にインタビュー

本部企画チーフ

小山 望咲さん(2I)

本部企画では、3年生から毎年行われるスタンプラリー企画を3年生から引き継ぎ、景品であるラバーバンドの制作を行ってきた。「各クラスの企画を5つのジャンルに分け、5色のスタンプを1つずつ設置し、パンフレットの裏にある台紙にスタンプを集めるという形式で行います」と小山さん。例年は7つ集める必要があるが、今年は5つ集めるとラバーバンドがもらえるそうだ。今回のラバーバンドは2種類ともリングタイプではなく、金具につけるタイプとなっている。小山さんは「私も錦城祭は初めてで、経験したことのない人が多いと思いますが、みんなが楽しめる錦城祭にしていきたいと思います」と意気込んだ。(抹)



お菓子の準備完了!

ルールを守ろう!



錦城祭実行委員長

長屋 碧さん(2C)



錦城祭間近になり、校内のボルテージが高まる中、錦城祭実行委員長の長屋碧さん(2C)に話を聞いた。長屋さんは、本部での準備では「それぞれが担当する部門を決めてから部門ごとに担当の部活と連絡を取ったり、各企画代表者と実行委員で当日のシフト等の打ち合わせをしたりしました」と話す。夏休みには全校制作であるモザイクアート作りも行っていたそうだ。密対策については「コロナ禍で安全に開催出来るかどうかを話し合い、体育館内での密を防ぐためのシミュレーションなどを行ってきました」と語った。開催当日については「マスク着用と換気、消毒を徹底して行います。皆さんには、校内では左側通行、体育館内では人との距離を1メートル以上空けて欲しいです」と呼び掛けている。最後に「お客さんがいない生徒のみの開催という点は、今年の錦城祭の魅力でもあります。当日まで頑張るので、楽しんでくれると嬉しいです。一緒に錦城祭を楽しみましょう」と締めた。(桂)

黒板をカラフルに!



掃除も抜かりなく!

パンフレットチーフ

宮ノ原 楓心さん(2A)



「今年のパンフレットのアピールポイントのページには、密対策に関する事柄も掲載しました」と宮ノ原さんは話す。パンフレットをつくるときに一番大変だったことは、誤字脱字を確認することだったそうだ。「周りの人たちの助けがあったからこそ、完成させることができました」と振り返る。宮ノ原さんは錦城生へ向けて「パンフレットを持ちながらまわってほしいです。頑張って作ったものなので、隅から隅まで見てください」と笑顔で呼びかけた。(紅)



宣伝も忘れずに!



門装飾チーフ 遠藤 瑞希さん(2J)

美術部部長

西澤 知依さん(2E)



「門飾制作のスケジュールを立てることが1番大変でした」と話す遠藤さん。今年の門飾は、錦城祭実行委員の門飾係と美術部が共同で制作した。美術部部長がいなくて制作ができなかったため、それに合わせてスケジュールを立てることが難しかったという。「一般の方が来場できないため、門飾を見る機会が少なくなってしまうと思いますが、美術部と門飾係が頑張ったので、見に来たり写真を撮ったりしてほしいです」と話した。西澤さんは「今年の門飾は1年生がデザインをし、2年生がそれらの案を組み合わせました」と話す。門飾の魅力については「『青春煌煌』をイメージして、青っぽさやさわやかさを取り入れました」と語った。また制作する際に感染症対策として作業の場所を分けて行ったり、話し合いは学校ではなくLINEで行ったりしたという。西澤さんは「細部までこだわったのでみんなに喜んでほしいです」と呼びかけた。(紅)